

NEWS 港湾ニュース

■「苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁供用開始記念式典」について

苫小牧港管理組合 企画振興課

平成 19 年の港湾計画改訂において、苫小牧港西港区の RORO 船ターミナルである西ふ頭の耐震化が位置づけられ、平成 23 年度から岸壁の耐震化改良と背後のヤードについて整備を進め、この度、耐震強化岸壁が完成しました。

去る 9 月 15 日に、苫小牧港西港区「北ふ頭キラキラ公園」におきまして、北海道開発局室蘭開発建設部と苫小牧港管理組合の共催のもと、「苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁供用開始記念式典」を開催しました。

当日は、あいにくの雨の中でしたが、式典には、関係者約 60 名が出席し、北海道と本州を結ぶ主要な物流拠点施設の完成を祝いました。



岩倉苫小牧市長の挨拶

テープ・カット

式典では、主催者を代表して苫小牧港管理組合管理者・岩倉博文苫小牧市長が、「耐震強化岸壁が完成し、当初の予定より早く完成しましたことを関係者に感謝したい。また、苫小牧港は、今年開港 50 周年を迎え、新たな 50 年の確かな第一歩の年であり、新しい施設の完成によって国際拠点港湾として、今後とも重責を担いたい」と述べました。

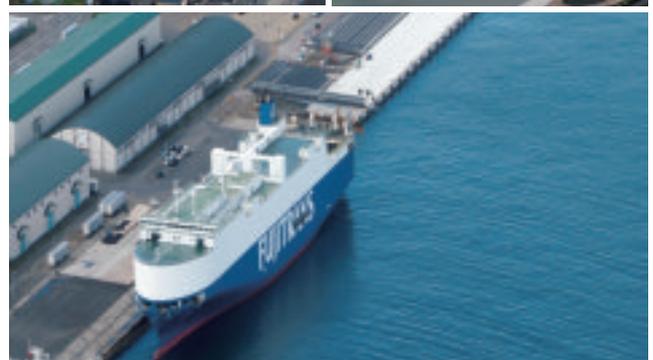
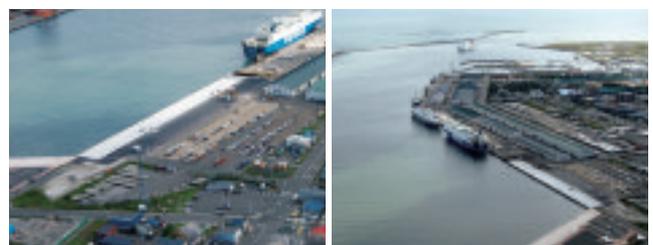
次に、北海道開発局の戀塚貴室蘭開発建設部長の主催者あいさつに続き、国土交通省の山縣宣彦港湾局長が、梶山弘志国土交通副大臣のあいさつを代読していただき、堀井学、高橋みほ両衆議院議員、遠藤連苫小牧港管理組合議会議長が祝辞を述べられました。

最後に、苫小牧港管理組合と室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所による事業概要説明の後、テープカット・くす玉割りが行われ、完成を祝いました。

苫小牧港西港区西ふ頭は建設から 40 年以上経過しており施設の老朽化が著しく、また、一般貨物船用に整備されているため、トレーラーや完成自動車等の車両旋回スペースが不十分であるなどの、非効率な荷役形態を強いられています。さらに、西港区において大規模地震発生時における海上からの緊急物資輸送の確保が課題となっていました。

延長 660 メートル（うち耐震構造 220 メートル）に及ぶ岸壁工事は、平成 29 年度まで続く予定となっております。

西港区で初の耐震強化岸壁の完成により、荷役の効率化が実現すると共に、大規模地震時の非常時における柔軟な運用も可能になり、緊急物資の輸送拠点としての機能が期待されます。



西ふ頭 耐震強化岸壁 全景